

みずほCustomer Desk Report 2018/05/08号(As of 2018/05/07)

国際為替部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	108.98
TKY 9:00AM	109.15	1.1955	130.49	GBP/USD	1.3534
SYD-NY High	109.40	1.1978	130.57	AUD/USD	0.7543
SYD-NY Low	108.76	1.1897	129.96		1.3516
NY 5:00 PM	109.10	1.1922	130.07		1.3558
NY DOW	24,357.32	94.81	日本2年債	-0.1400	0.00bp
NASDAQ	7,265.21	55.60	日本10年債	0.0400	0.00bp
S&P	2,672.63	9.21	米国2年債	2.4991	▲0.39bp
日経平均	22,467.16	▲5.62	米国5年債	2.7880	0.17bp
TOPIX	1,773.18	1.66	米国10年債	2.9507	0.00bp
ソコ日経先物	22,475	▲5.00	独10年債	0.5275	▲1.45bp
ロンドンFT	-	-	英10年債	1.3960	▲0.25bp
DAX	12,948.14	128.54	豪10年債	2.7505	▲3.50bp
ハンセン指数	29,994.26	67.76	USDJPY 1M Vol	6.85	0.20%
上海総合	3,136.64	45.61	USDJPY 3M Vol	7.48	0.05%
NY金	1,314.10	▲0.60	USDJPY 6M Vol	7.94	0.09%
WTI	70.73	1.01	USDJPY 1M 25RR	-0.70	Yen Call Over
CRB指数	203.64	0.38	EURJPY 3M Vol	7.65	0.03%
ドルインデックス	92.75	0.18	EURJPY 6M Vol	8.00	▲0.03%

【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
5月7日	08:50	日銀金融政策決定会合議事要旨「強力な金融緩和を進めることが適切=大方の委員」		
	15:00	独 製造業受注(前月比)	3月 -0.9%	0.5%
5月8日	-	米 ポスティブ・アトランタ連銀総裁「インフレ率、目標をある程度超えても問題ない」		
	-	米 パーキン・リッチモンド連銀総裁「特に大きな賃金圧力は見られない」		

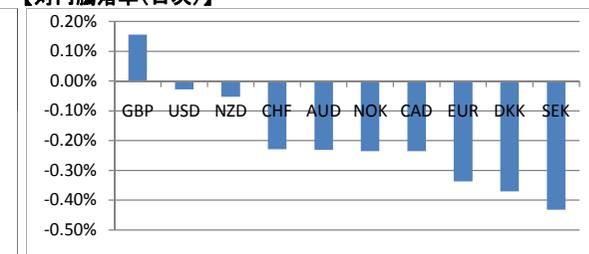
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
5月8日	10:30	豪 小売売上高(前月比)	3月 0.2%	0.6%
	-	中 貿易収支(米ドル)	4月 \$27.75b	-\$4.98b
	-	中 輸出/輸入(前年比)	4月 8.0%/16.0%	-2.7%/14.4%
	15:00	独 鉱工業生産(前月比)	3月 0.8%	-1.6%
	16:15	米 パウエルFRB議長講演	-	-

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	108.50-109.50	1.1850-1.2000	129.50-131.00

【マーケット・インプレッション】

昨日の海外市場でのドル/円は往って来いの展開。前日比プラス圏でオープンした日経平均株価がマイナス圏に反落する中で一時108.76まで軟化したドル円は、海外時間にかけて反発。一時109.40まで上値を伸ばすも、この日は特段の経済指標などの発表も予定しておらず材料不足となる中でドル買い相場は続かず、結局109円台前半でクローズ。本日のドル円相場はやや上値の重い展開を予想。相場感としては引き続きドル買い優勢地合いが続くと考えるも、足許でやや材料不足感が漂っていることに加え、翌朝方にかけてイラン核合意に係る決断についてトランプ氏より発表される見通しとなっており、重大発表を前に様子見ムードが強まりそう。レンジを大きく切り下げる展開は考えていないものの、基本的には様子見姿勢の中で上値の重い展開を予想する。

東京	東京時間のドル円は109円台前半に持ち直した。東京時間は109.15レベルにてオープン。午前中は日経平均が前日終値対比100円超の下落となったことでドル円も売り込まれ、一時108.76まで下落。その後日経平均が下げ幅を縮小するとドル円もつれ高となり109円台を回復した。しかし、先週末(5/4)の高値109.27付近では失速し、109.22レベルにて海外時間へ渡った。
ロンドン	休場
ニューヨーク	海外市場で日経平均が軟調に推移したことを受け円買いが強まり一時108.76まで下落したドル円は、ロンドンが休場の中その後はドル買いが優勢となったことから値を戻し、109.38レベルでNYオープン。米主要経済指標の発表が予定されておらず、朝方は海外市場の流れを引き継ぎ109.40まで戻すものの、新規材料に欠ける中で上値を試す動きは見られず、その後はドル売りが優勢となったことから徐々に反落する。午後は、ポスティブ・アトランタ連銀総裁が「インフレが目標を超えても対応可能」との見解を示し、パーキン・リッチモンド連銀総裁が「桁外れの賃金上昇圧力は見られない」等の発言をするが、ドル円の反応は限定的となる。終盤に掛けては、堅調に推移していたダウが前日比横ばいまで下落する展開に、円買いが強まり、ドル円は109.00まで反落し、109.10レベルでクローズした。一方、独3月製造業受注が予想を大幅に下回り、前回分も下方修正されたことから、海外市場のユーロドルは上値を重くし、1.1900レベルでNYオープン。朝方は、1.1897を付ける局面もあったものの、その後はドル売りが優勢となったことから1.1938まで戻す。午後は明日のパウエルFRB議長のスピーチでの講演を控え、狭いレンジでの推移が続き、1.1922レベルでクローズした。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなされるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。